

2021年度 年主題「共に喜んで～すべての歩みの中～」

0・1・2歳児 5月主題 「だいじょうぶ」

月のねがい

- ◎神さまのお守りの中、園生活に慣れていく。
- ◎おだやかでやさしいことばをかけられ満たされて過ごす。
- ◎お祈りやさんびかに親しむ。
- ◎一緒にいる保育者や友だちと安心して過ごす。

3・4・5歳児 5月主題 「動き出す」

月のねがい

- ◎保育者や友だちと一緒にさんびかを歌うことやお祈りをすることを喜ぶ。
- ◎身の回りのことを、保育者に助けられながら安心して行う。
- ◎与えられている時・もの・こと・人・自然などの恵みを喜び、神さまに感謝する。

今月の聖句 「私たちは互いに愛し合ひましよう。」

1ヨハ4:7

2011年の東日本大震災で、私たちは改めて津波の恐ろしさを知りました。それ以降、日本各地に「津波到達水位」が掲示されるようになりました。東京や大阪の街中でも、津波が起こったら、この高さまで津波が押し寄せることを示す水位線が掲げられ、いざという時に備えるよう、啓発運動がなされています。

聖書は「神は愛である」(1ヨハネ書4:8)と語りますが、ある人がこの聖書のみ言葉は水位掲示板のようなものである、と言いました。日本人が「津波到達水位線」を見て、津波に備えようとするように、「神は愛である」という聖書のみ言葉に触れて、人は自分たちが互いに愛し合うべき存在であることに気づかされるのです。

世の中には、地震や津波、台風や水害、そして新型コロナウイルスのような天災が尽きません。また、そのような災害の後に、必ずと言っていいほど人災も続きます。神が愛であるならば、どうしてそのようなことを許されるのか、という考え方もあるでしょう。けれども、そういう時にこそ、人は愛を必要とします。天災や人災がなくても、人は愛を必要とするのです。「神は愛である」という注意喚起を促すみ言葉に触れ、私たちは互いに愛し合うべき存在であることに気づくのです。神が愛であるからこそ、私たちも互いに愛し合ひ、私たちが互いに愛し合う中に、また、神の愛の片鱗が現れるのです。

教会協力牧師 池田基宣



モーリス・センダック かく じんぐうてのおやく

5月の行事予定

6日(木)	健康診断(13:30～)
6-14日(金)	家庭訪問(3才以上)
7日(金)	誕生会(2才以上4・5月生)
11日(火)	役員会
13日(木)	交通安全教室
15日(土)	親子遠足・父母会総会・弁当日
19日(水)	避難訓練
21日(金)	弁当日
24-28(金)	フリー参観
29日(土)	誕生会(めぐみ組4-6月生)
31日(月)	誕生会(2才以上児5月生)

6月の行事予定

1日(火)	給食試食会(3才児)
3日(木)	給食試食会(4才児)
4日(金)	給食試食会(5才児)
5日(土)	園内研修
8日(火)	役員会
11日(金)	誕生会(2才以上6・7月生)
17日(木)	弁当日
19日(土)	子育て講演会

自然の恵みの中で育つ

新しく入園したお友だちの涙声も、少しずつおしゃべりや笑い声に変わってきました。それぞれ好きな玩具や好きな場所を見つけて、遊び始めていることも園です。

3月末にあった「五感を使った自然体験」のリモート研修の後、芝生広場にバナナの木を植えたり、ジャングルジムの下にシロツメクサを移植して、園庭内でも自然を体験できるよう環境整備をしました。シロツメクサを見て「お花畑できたね!」といるかのRくん。朝の自由遊びでは、花壇に植えてあったアロエを抜いて「アロエむき」に挑戦! 何日かアロエむきを続けていくと、スプーンを使って1本分の長さを綺麗にむけるようになったくじらのRくん。周りの先生や友だちに「すご〜い」と言われている姿をみて、くじらのYくんは「なんか、Rくん人気者だなあ!」と一言(笑)。そんなお兄ちゃん、お姉ちゃんのおそびを見ながら0〜2才児もあそびをマネし始めて一緒に楽しんでいるところです。

また4月24日には、理学療法士の方を講師に園内研修を行いました。子どもの体の発達について、その支援のポイントなども学ぶことができました。改めて、幼児期の体の動き(発達)の大切なこと、遊びの中で楽しみながら体を動かしていくこと、そのためには色々な経験の中で**重たい、軽い、大きい、小さいなどの感覚を感じさせていくこと**を学ぶことができた時間でした。新年度早々、研修の為に迎えのご協力をいただきありがとうございました。

風が心地よい5月。わかさ公園の自然環境、城ヶ浜の海の音や潮の匂い、園庭のダンゴムシ等々、身近にある自然や生き物との触れ合いを通して、子どもたちの体や手先が生き生きと動かすことができるように、私たち保育者も一緒に楽しんでいきたいと思ひます。

主任:伊豆元



友だちとトラブルになったら

4月も後半になってくると、友だちと遊びだす姿が見えるようになってきます。一方で、友だちと関わる時に緊張したり、言葉でうまく表現できない子どももいます。また、関わりが増えることでいざこざも多くなってきます。

そんなこの時期のねらいを「**保育者や友だちと関わりながら、一緒に過ごす心地よさを感じる**」としています。この時期に私たちが大切にしたいのは「友だちっていいな!」「一緒に楽しいな!」という他者に対する基本的な信頼感を築くことだと思っています。いざこざや困ったことが



起こっても、保育者や友だちと一緒に過ごす心地よさを感じることができるといいですね。友だちと関わりながら、一緒に過ごす心地よさを感じることができるといいですね。友だちと関わりながら、一緒に過ごす心地よさを感じることができるといいですね。

面白さや驚きを体験しよう

子どもたちの感性は敏感です。戸外に出て過ごすようになると、様々なものに反応します。そこで、この時期のねらいを「**身近なものに関わりながら、面白さや驚きを感じる**」としています。「**出会いを支える**」ことと「**邪魔をしない**」ことをしていると、様々な身近な自然物との出会いが生まれます。そのときに子どもたちが感じている「おっ!」とか、「わあ!」と一緒に受け止める存在でありたいと思ひます。もう一つ大事にしたいのは五感すべてを使えるような工夫をすることです。現代社会は視覚優位で、他の感覚を使うことが少なくなっています。



他の感覚を使うことが少なくなっています。この時期に素朴な自然物を味わったり、自然の匂いを嗅いだり、様々なものに触れてみると、原体験としての子どもたちの心に深く刻まれ、豊かな感性が育ちます。

著者:松元伸吾

慌ただしくなってきた。半袖で過ごす子どもたちも日常になりつつあります。昨年の今頃は、全国一斉の非常事態宣言が聞かれ、今も状況はあまり変わっていないように感じています。医療従事者の方のご苦労や亡くなられた方のご家族の心情を自分のこととして心に重く置きたいものです。子どもたちの泣き声や笑い声に包まれる空間は、生命の活力に満たされ愛しいもの。一日も早く、すべての人にとって平安が与えられますよう祈ります。

私事ですが、娘の出産帰省の為、しばらく孫(四歳男児)と同居することになりました。今の彼のブームは、「カーズ」と「恐竜図鑑」。気が向けば、ティラノサウルスになって大声で走り回って吠えまくっています。居間は段ボールで創った隠れ家や自動車散乱したのが、絵本「かいじゅうたちのいるところ」。いたずら好きのマックスがお母さんに怒られ、かいじゅうたちのいるところへ行つて帰ってくるシチュエーションのお話です。ご覧になった方はお気づきでしたでしょうか? 表紙にも出てくる怪獣の足のことを。一頭だけ人間の足をしていますね。マックスを木の陰からのぞいたり、一緒に大暴れして寄りそうように眠ったり、かいじゅう踊りをして背負ったり。この存在はもしかして...この絵本には様々な解釈があるようですが、自ら成長しようとする子どもの本質がジワジワと味わえるのでお薦めです。

新しいことに会おうとき、大人はその人なりの経験で予測や準備ができます。しかし、子どもは入園や転園をすることも進級することも白紙からの出発です。白い紙の上に行くつもりの絵の具が散らされるように、自分が置かれた状況に直面します。そこから各々がそれなりに動き出し、多くのことに出会います。新しい場所、仲間、先生、あそび、園生活の流れ。「こういうこともあるんだ!」と深く知っていく中で、うまくいく心地よい体験や思うに任せない苦しい体験をしていきます。その過程に「その子らしさ」が出てくるのです。興奮して收拾がつかなくなる子、逆に身動きがでなくなる子がいます。想定外のことに出会ったときに強行突破する子もいれば、さつと引いてしまおう子もいます。これが、その子らしさの現れなのだと思います。その子らしさというものは、時には私たちが戸惑わせたり、イライラさせたりするものでもありません。それを見て大人の気持ちや都合で、「これは困る」「こんなはずではなかった」と評価されるのは、子どもにとっては迷惑なことです。私たち保育者も、子どもがやがて自分で作った枠に収まることを自分の成果と喜ぶのではなく、その子の経験から学んだ結果として捉えなければなりません。

子どもたちはそろそろ疲れが出始める頃です。連休をご家族で楽しまれながら、どうぞ十分な休養もお願ひしたいと思ひます。梅雨時を元気に乗り越えるためにも、毎日の変化に感じた食事や睡眠に留意し、保護者の皆様のご協力をいただきながら楽しい園生活を支えていきたいと思います。

園長